

令和8年度DXハイスクール取組事例【農業科】



鳥取県立倉吉農業高等学校
(継続3年目)

「鳥取・倉吉に農業分野の新たな価値を創造する」

取組① メタバース空間を通じた生産物の販売

倉吉市の仮想空間「バーチャル倉吉」と接続し、メタバース空間においてアバター接客による農産物PRを実施。

3Dスキャンによる商品展示やキャッシュレス決済の実装を通じ、次世代の流通を学ぶ。

【実践例】仮想空間での全カアピール

➤ バーチャル接客

生徒がアバターとなり、全国の来訪者に栽培のこだわりを直接プレゼン。

➤ 3D デジタル農産物

3Dスキャン技術でリアルなデジタル農産物を展示。視覚的な魅力を最大化。

➤ 新しい流通の学び

メタバースからオンラインショップ・キャッシュレス決済へ誘導。商品PR・受注・発送の一連の販売ルートを体験学習。



取組② 「そうのうDXラボ」を拠点とした農業DXの推進

「そうのうDXラボ」を設置し、自動ロボットやドローンによるデータ分析を深化。建設分野では3Dレーザースキャナーを活用し、ICT施工技術を習得。

【実践例】「カッコいい」農業の展開

➤ 自動化機器の運用

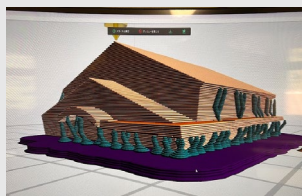
自動草刈り機等の稼働データ分析。広大な校地の管理、効率化モデルの構築。

➤ 建設DXの導入

GNSS測量*や3次元設計データの活用。

➤ 環境モニタリング

センサー群で圃場データを蓄積、科学的根拠に基づいた農業の実践。



*衛星測位システム(GNSS)を活用した測量

取組③ 各種機関と連携した最先端の学びの体験

地元の農家や企業、官公庁、専門家との連携だけでなく、オンラインで全国の知見と繋がる。

【実践例】

➤ 広域的な産官学連携

地元の農家、企業、官公庁、大学との連携だけでなく、倉吉にいながら全国の専門家・有識者と繋がり、最先端の技術体験や実証実験を実施。

➤ AI・プログラミング

プログラミング技術等を用いた収穫予測や病害虫診断シミュレーションの実装。身に付けた技術を農業・建設分野へ活用。福山大学と連携したドローンプログラミング教室の開催。



育成する資質・能力



「**カッコいい**」農業の体現者：デジタル農業を駆使したモデルを示すことで、若者の地元定着と新産業の創出に貢献できる人材を育成。

1. **デジタル実装・運用能力**：AIやプログラミングなどのデジタル技術を、「現場」に導入し、実際に活用・運用することができる力。
2. **マーケティング・流通力**：技術で効率化するだけでなく、作ったものをいかに戦略的に市場へ届け、利益をいかに最大化するかというビジネス視点を持ち、生産から流通までプロデュースする力。
3. **科学的・論理的思考力**：勘や経験だけに頼るのではなく、現場から得られるデータを分析し、根拠を持って最適解を導き出すことができる思考力。